

たまねぎ

<ボトリチス葉枯症>

3種類の菌があり、葉に葉枯症状が発生する点で共通しているため、一般に「ボトリチス葉枯症」と呼ばれる。寒冷期は葉に直径1～2mmの輪郭が明瞭な円形ないし楕円形のくぼんだ斑点が多く現れる。たまねぎの灰色かび病に登録のある農薬を散布。

たまねぎ『灰色かび病』に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前	3回
スミレックス水和剤	1000倍	前日	5回
ロブラール水和剤	1000倍	7日前	3回
アフェットフロアブル	2000倍	前日	4回
パレード20フロアブル	2000～4000倍	前日	3回

<べと病・白色疫病>

べと病 : 1月号参照

白色疫病: 葉の先端部が水浸状となり、白色に変色して垂れ下がる

2～3月に温暖で雨が続く場合に多発しやすいので、水はけの悪い圃場や例年発生が多い圃場では、排水を良好にし、予防(早期)防除に努める。

たまねぎ『べと病』・『白色疫病』の両方に登録のある殺菌剤(抜粋)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
リドミルゴールドMZ	500～1000倍	7日前	3回
ザンプロDMフロアブル	1500～2000倍	7日前	3回
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前	3回
ベトファイター顆粒水和剤	2000倍	7日前	

水なす

<なす育苗期から定植時に使用できる農薬(抜粋)>

薬剤名	使用時期	使用回数	適用害虫
モベントフロアブル	育苗期後半～定植当日 500倍(25～50ml/株灌注)	1回	アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、 チャノホコリダニ、ハダニ類、うどんこ病
プレバソンフロアブル5	育苗期後半～定植当日 100倍(25ml/株灌注)	1回	ネキリムシ類、ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類
スタークル粒剤	育苗期1～2g/株・株元散布 または、定植時1～2g/株・植穴土壌混和	1回	アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、 ハモグリバエ類
アクタラ粒剤5	育苗期後半1g/株・株元散布(アブラムシ類のみ) または、定植時1～2g/株 植穴処理	1回	アブラムシ類、コガネムシ類幼虫、マメハモグリバエ コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ
ネマトリンエース粒剤	定植前15～20kg/10a 全面土壌混和	1回	オンシツコナジラミ、ネコブセンチュウ、 ハダニ類、ミナミキイロアザミウマ

水なすは栽培期間が長いので、栽培途中で総使用回数を超えないよう農薬選定を行って下さい。

また、同じ農薬を連用することにより、薬剤抵抗性がつきやすくなりますので、異なる系統の農薬でローテーション散布を行って下さい。

さといも

マルチ栽培の定植期に合わせて2月中頃より催芽の準備を始めます。

催芽日数は、乾燥貯蔵で40日以上、生いけ貯蔵で30日程度必要です。

催芽床では種いもを積み重ねたり、過湿になると腐りが多くなります。

覆土後に十分に水をやり、その後余程乾燥しない限り灌水は控えて下さい。

催芽中は、日中23～25℃を目標にし12℃以下・30℃以上にならないよう管理しましょう。

<さといも種子消毒>

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
トップジン M 水和剤	200～500倍	植付前	20～30分間 種いも浸漬	1回
ベンレート T 水和剤20	20倍	植付前	1分間 種いも浸漬	1回

じゃがいも(春作)

水はけが悪いと疫病が出やすくなるので、水はけの良い圃場を選びましょう。また、土がアルカリ性になると

そうか病にかかりやすくなるので、石灰の大量施用は禁物です。植付けは、無菌の種いもを準備し、

大きな種いもは芽の数が均等になるように一片35～40gに切り分けます。

切り分けたら、そのまま2～3日置き、傷口が乾いてから植え付けます。

2021年 2月出荷暦							2021年 3月出荷暦						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	1	2 出荷 休み	3	4	5	6 出荷 休み		1	2 出荷 休み	3	4	5	6 出荷 休み
7	8	9	10 出荷 休み	11	12	13 出荷 休み	7	8	9 出荷 休み	10	11	12	13 出荷 休み
14	15	16 出荷 休み	17	18	19	20 出荷 休み	14	15	16 出荷 休み	17	18	19 出荷 休み	20 出荷 休み
21	22 出荷 休み	23	24	25	26	27 出荷 休み	21	22 出荷 休み	23 出荷 休み	24	25	26	27 出荷 休み
28							28	29	30 出荷 休み	31			



農薬使用の基本は、『農薬ラベルの確認・使用方法を守る』『周辺への飛散防止対策をする』『農薬の管理、散布器具の整備を徹底』農薬をした際は、その都度生産履歴(防除日誌等)に正確に記帳しましょう。

JA 営農だよりの内容について、詳しくは 各営農センター、営農店舗、指導課 までお問い合わせください。